

36th PIA FILM FESTIVAL



2014/09/13[土]-09/25[木] *月曜休館 / 東京国立近代美術館フィルムセンター

主催: PFFパートナーズ ぴあ ホリプロ UNIJAPAN 公益財団法人ユニジャパン

共催: 東京国立近代美術館フィルムセンター 特別助成: 映画演劇文化協会 特別協賛: SEGA-SAMMY GROUP

PFFサポート: KLOCK WORKS TOPPAN BS日本映画専門チャンネル ROBOT Brazil 夜景検定 朝日新聞

後援: 一般社団法人 日本映画製作者連盟 NPO法人 映像産業振興機構(VIPO) 協同組合 日本映画監督協会

協力: 早稲田大学 ⑩-WAVE FM 日本映画ベンカラバ

<http://pff.jp/36th/>



[コンペティション部門] PFF Award 2014 いま、あなたが映画だと思うものが映画。そんな時代の到来を目撃!

PFFアワード2014

PFF Award

A

▶9/13[土]
11:30~
▶9/17[水]
18:30~



PFF Award

B

▶9/13[土]
14:30~
▶9/17[水]
15:30~



PFF Award

C

▶9/13[土]
18:00~
▶9/17[水]
12:00~



表彰式&グランプリ作品上映 ▶9月25日[木]16:30~



27分/カラー

『ナイアガラ』

監督: 早川千絵 (37歳/東京都出身)

大丈夫、恐れることなどなにもない

18歳になった女の子やまは、施設を出る直前に祖父母の存在を知る。祖父は死刑囚で、祖母は認知症。という事実を、驚きも落胆もせず受け入れる彼女の前向きさに、

まず引き込まれる。祖母を介護する青年が録音する、街中の何気ない日常の音の愛おしさから、生きている有難みを実感、感動がじんわり胸に沁み込んでいく。

『人に非ず』

監督: 矢川健吾 (26歳/神奈川県出身)

これは殺戮か? それとも生態系の法則か?

小笠原諸島の父島にある観光客向けホテル・ホライズンにひとりの新人従業員がやってくる。彼は、海と山の豊かな自然に囲まれた一見のどかに見える日常生活の裏に、閉鎖的な環境からくる陰鬱な人間関係があるのを垣間見る。その一方で、彼にはこの島で実行しなければならない密かな計画があった…。

65分/カラー

『ひこうき雲』

監督: 柴口 熱 (46歳/福岡県出身)

演じることで、学校が、別の世界にかわっていく

となる中学校の教室で、ビリビリに破られる修学旅行の予定表。破って捨てたのは一体誰…? そのとき、ひとすじのひこうき雲が空を横切る。見上げているのは、羽化を待つ少年少女たち、皆、いずれ遠くへと羽ばたいてゆく子供たちだ。柔らかな殻をいま破らんとしている彼ら彼女の目は、どんなときも、前を見つめている。

25分/カラー

『埋み火』

監督: 山内季子 (24歳/青森県出身)

あなたに再会した日から、私が静かに発火する

田舎町のスーパーで魚をおろし続ける比富美は、小さなアパートで寝たきりの母親を介護中。東京から戻った大輔との再会で、心の奥深くに埋めていた希望の光に手を伸ばそうとするが…。20代半ばで介護に縛られる閉塞感を、手を洗うという行為で表現。比富美的未来に光を射すよう心を込めてエールを送りたい気持ちにさせられる。

32分/カラー

『反駁』

監督: 伊之沙紀 (30歳/神奈川県出身)

ノストラダムスがこなったから、私たちは…

1997年7月、ノストラダムスの預言の降臨の如く渋谷の路上に現れた通り魔、そこで遭遇した受験地獄にいた4人の小学生が最高学府で再会し、過去の忌わしき記憶に翻弄される。人間の精神の闇を希求しながらも、映画はそれを遙かに越え、逃れ得る運命の領域にまで到達する。群を抜く不穏と緊張感に満ちた異形の映画。

51分/カラー

『小さな庭園』

監督: 斎藤俊介 (29歳/千葉県出身)

小さな主人公が、大きな決断を迫られる

片眼の主人公が目を覚ますとそこにはいつもの庭園がいた。アニメーションの最前线はエッジの効いた3D CGばかりではない。高度なテクニックを感じさせず、想像力。小さな世界の壮大な物語がここにある。

12分/カラー

『暁の石』

監督: 清原 惟・飛田みちる (21歳/東京都・茨城県出身)

少女たちは微熱のような夏とたわむれる

母が失踪して三ヶ月の佳子は、大量の魚の死体が浮かぶ不気味な沼で幼馴染みの光子と再会し、昔のように、沼、図書館、「神殿」と呼ぶ廃屋などで無為の戯れに興じる。映画はその少女たちの戯れを通じて、生活の何処にも属さない、あえてなき時間そのものを鮮やかに浮かび上がらせ、戯れる少女たちの姿はただひたすらに眩しい。

30分/カラー

『ガンバレとかうるせえ』

監督: 佐藤快磨 (24歳/秋田県出身)

爽やかでも健やかでもない だから…

サッカーボールのキャプテンと女子マネージャー、2人は最初から最後まで、「試合に出る」という情熱を弛まず持ち続け、それを貫き通す。スロボ根映画の類いではないので派手なドラマは起こらないが、全編に渡って若い人間の息づかいがあり、特に、2人の射貫くような視線の真っ直ぐさには幾度もはっとさせられた。